

## 「脊髄障害防止の観点からみた胸部下行・胸腹部大動脈瘤外科治療ないしはステントグラフト治療体系の確立」に関する多施設共同コホート研究

当院では、厚生労働科学研究\*として、胸部下行・胸腹部大動脈瘤外科治療ないしはステントグラフト治療を受けられた患者様の検査、治療結果に関する調査を行っています。2000年1月から2009年3月までに上記治療を受けられた患者様を対象に、年齢、性別、検査結果(特に、MRIやCTによる脊髄動脈の同定検査結果)、脊髄障害を中心とした治療成績などの診療情報を調査しています。

この調査では、集計、解析の際に匿名化して情報を取り扱うこととし、患者様の個人情報情報を厳重に保護し、患者様に不利益が生じないよう配慮しています。この調査によって得られた情報は、研究の目的以外には使用いたしません。また、原則的に診療録(カルテ)中心の調査ですが、最近のご様子に関しては電話等で患者様に直接、病状を尋ねることがあります。

対象に該当する患者様で、この研究について疑問、または情報提供拒否のご意見がございましたら、循環器外科(内線 6042)まで、お知らせください。ご連絡がない場合には、貴重なデータとして本研究に活用させていただきます。

診療技術の向上のため、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

研究対象者：2000年1月1日から2009年3月31日の9年間強に、胸部下行・胸腹部大動脈瘤外科治療もしくはステントグラフト治療を受けられた患者様

研究期間：2009年4月から2011年3月まで

北海道大学病院 循環器外科

松居喜郎・久保田卓

\*厚生労働科学研究費補助金(循環器病疾患等生活習慣病対策総合研究事業)

「脊髄障害防止の観点からみた胸部下行・胸腹部大動脈瘤外科治療ないしはステントグラフト治療体系の確立」

主任代表者：国立循環器病センター 心臓血管外科 荻野 均

事務局：国立循環器病センター 心臓血管外科血管外科電話 06-6833-5012  
(内線 2358)